

令和3年度

北海道高等学校教育研究大会教科別集会

情報部会

北海道札幌北高等学校 令和4年1月13日(木)

1	時程	1
2	企業展示・企業プレゼンテーション進行表	
3	総会		
	(3-0) 総会次第	
	(3-1-1) 令和 2年度 一般会計収支決算	2
	(3-1-2) 令和 2年度 特別会計収支決算	3
	(3-1-3) 令和 2年度 積立会計収支決算	4
	(3-2) 令和 3年度 役員構成	5
	(3-3-1) 研究紀要		
	(3-3-2) キャラバン研究会		
	(3-3-3) 情報教員養成プロジェクト	6
	(3-3-4) 授業レシピプロジェクト	
	(3-3-5) 令和 3年度 高教研情報部会アンケート集計結果報告	7
	(3-4-1) 令和 3年度 一般会計予算	15
	(3-4-2) 令和 3年度 特別会計予算		
	(3-4-3) 令和 3年度 積立会計予算		
	(3-4-4) 令和 3年度 一般会計中間報告	16
	(3-4-5) 令和 3年度 特別会計中間報告		
	(3-4-6) 令和 3年度 積立会計中間報告		
	(3-5) 令和 4年度の研究テーマ	17
	(3-6-1) 研究紀要	19
	(3-6-2) キャラバン研究会		
	(3-6-3) 高教研情報部会アンケート		
	(3-6-4) 全国高等学校情報教育研究会全国大会参加派遣補助		
	(3-7-1) 令和 4年度 一般会計予算案	20
	(3-7-2) 令和 4年度 特別会計予算案		
	(3-7-3) 令和 4年度 積立会計予算案		
4	その他		
	(4-1) 北海道高等学校教育研究会情報部会規約	21
	(4-2) 参加者名簿	23
	(4-3) アンケート	24

1 時程

- 9：00～ 9：30 接続・受付（学校名とお名前でZoomミーティングに参加してください）
- 9：30～10：00 開会式・総会
- 10：00～11：30 基調講演
- 11：30～13：00 昼食・休憩・企業プレゼンテーション
- 13：00～15：00 ワークショップ
- 15：00～15：10 閉会式

2 企業展示・企業プレゼンテーション進行表

*協賛企業一覧（五十音順・敬称略）

カシオ計算機株式会社
株式会社システムシェアード
株式会社バッファロー
株式会社ベネッセコーポレーション
実教出版株式会社
東京書籍株式会社
日本データパシフィック株式会社
日本文教出版株式会社
ライフイズテック株式会社
レノボ・ジャパン合同会社

*動画プレゼンテーション（プレゼン順・敬称略）

カシオ計算機株式会社
株式会社バッファロー
株式会社ベネッセコーポレーション
ライフイズテック株式会社
レノボ・ジャパン合同会社

3 総会

3-0 総会次第

*報告事項

- 1 令和2年度 収支決算
 - ・令和2年度 収支決算報告（一般・特別・積立）
 - ・令和2年度 会計監査報告（一般・特別・積立）
- 2 令和3年度 役員構成
- 3 令和3年度 事業報告
 - ・研究紀要
 - ・キャラバン研究会
 - ・情報教員養成プロジェクト
 - ・授業レシピプロジェクト
 - ・高教研情報部会アンケート集計結果報告
- 4 令和3年度 会計執行状況

*審議事項

- 5 令和4年度 研究テーマ
- 6 令和4年度 事業案
 - ・研究紀要
 - ・キャラバン研究会
 - ・高教研情報部会アンケート
 - ・全国情報研究大会参加派遣
- 7 令和4年度 予算案（一般・特別・積立）

*その他

- 8 その他

3-1-1 令和2年度 一般会計収支決算

(様式 教-7-3)

令和2年度 会計収支決算書 (研究調査費)

令和3年1月25日

収入の部

北海道高等学校教育研究会 情報部会

科 目	予算額	決算額	増 減 (△)	摘 要
繰越金	300,000	264,162	△ 35,838	
本部交付金	235,900	40,000	△ 195,900	
雑収入	0	1	1	利息
合 計	535,900	304,163	△ 231,737	

支出の部

科 目	予算額	決算額	増 減 (△)	摘 要
講師旅費・謝金	180,000	0	△ 180,000	
事業費	40,000	5,238	△ 34,762	サーバ利用料等
会場費	0	0	0	
運営費	35,000	1,230	△ 33,770	飲み物等
研究調査費	50,000	0	△ 50,000	
備品運搬費	15,000	0	△ 15,000	
事務通信費	10,000	1,008	△ 8,992	郵送料
備品購入費	115,000	0	△ 115,000	
予備費	90,900	0	△ 90,900	
合 計	535,900	7,476	△ 528,424	

(収入額)

¥304,163

(支出額)

¥7,476

(残高)

¥296,687 [令和3年度へ繰越]

令和2年度会計収支について、監査の結果、適正であることを認める。

令和3年1月25日

監査(監事)

小甲 正



天野 将寿



※注

- ①収入・支出科目にない科目がありましたら適宜設けてください。
支出科目例—研究助成金、会議費、印刷費、消耗品費、通信費、予備費、運営費等。
②領収書(原本)などの証拠書は、各地区支部、各教科部会で保存してください。
本部事務局から提示を求められたら提出してください。

3-1-2 令和2年度 特別会計収支決算

(様式 教-7-3)

令和2年度 特別会計収支決算書

収入の部

北海道高等学校教育研究会 情報部会

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 (△)	摘 要
繰 越 金	20,000	70,506	50,506	
企業広告協賛金	100,000	0	△ 100,000	
雑 収 入	0	0	0	
合 計	120,000	70,506	△ 49,494	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 (△)	摘 要
運 営 費	30,000	0	△ 30,000	
役 務 費	80,000	0	△ 80,000	
積 立 会 計	0	0	0	
予 備 費	10,000	0	△ 10,000	
合 計	120,000	0	△ 120,000	

収入額 70,506 — 支出額 0 = 残高 70,506

[令和3年度へ繰越]

令和2年度会計収支について、監査の結果、適正であることを認める。

令和3年1月25日

監査 (監事)

小甲 正

天野 将寿



3-1-3 令和2年度 積立会計収支決算

令和2年度 積立会計収支決算書

収入の部

北海道高等学校教育研究会 情報部会

科 目	収 入 額	摘 要
繰 越 金	21,912	
積 立 金	0	
雑 収 入	0	
合 計	21,912	

支出の部

科 目	支 出 額	摘 要
運 営 費	0	
役 務 費	0	
事 務 通 信 費	0	
予 備 費	0	
合 計	0	

収入額 支出額 残高
21,912 0 = 21,912

[令和3年度へ繰越]

令和2年度会計収支について、監査の結果、適正であることを認める。

令和3年1月25日

監査（監事）

小甲 正

天野 将寿



3-2 令和3年度 役員構成

役員名	氏名	学校名	年間担当
部会長	佐藤 健	北海道檜山北高等学校	
副部会長	古屋 順一	北海道有朋高等学校	
〃	円山 健一	北海道札幌北高等学校	
監事	小甲 正	北海道月寒高等学校	監査
〃	天野 将寿	市立札幌新川高等学校	監査
幹事	池田 弘樹	北海道滝川高等学校	
〃	梅田 充	北海道恵庭北高等学校	
〃	奥村 稔	北海道遠隔授業配信センター	
〃	鎌田 亮樹	旭川藤星高等学校	
〃	津端 公彦	北海道小樽潮陵高等学校	
〃	古澤 正三	札幌北斗高等学校	
〃	前田 健太郎	北海道札幌北高等学校	
〃	伊藤 崇	北海道伊達開来高等学校	
〃	宮川 尊充	北海道帯広緑陽高等学校	
〃	土田 泰裕	北海道帯広柏葉高等学校	
事務担当	鶴間 伸一	北海道札幌稲雲高等学校	運営・渉外 基調講演 研究紀要(募集)

3-3-1 研究紀要

例年通り、研究紀要への執筆者を choice ウェブページおよび choice メーリングリストを通して募りましたが、今年度は執筆の希望はありませんでした。

来年度も執筆の募集を行います。日頃の研究の成果を研究紀要としてまとめてみませんか。執筆を希望される方は高教研情報部会事務局担当鶴間(neo_turuq@yahoo.co.jp)までご連絡ください。

3-3-2 キャラバン研究会

キャラバン研究会は、積み重ねた実践を互いに共有し合うことで、生徒の学習意欲を高めながら全道各地で質の高い教育活動ができることを目指し、実務的な研修を行うものです。

学校事情や移動距離などにより1月の高教研情報部会の研究集会に参加できない先生方や、都市近郊から離れた土地で情報科を一人で担当して悩みを抱えている先生方などが、少しでも負担を感じることなく研修に参加する機会を設けるために始まりました。

キャラバン研究会は、今までに42回の開催を経て、様々なフィードバックを得て少しずつ進化し続けています。教育実践の発表だけでなく、ワークショップや懇親会を通じて、多くの仲間達との出会いの場としても大きな位置を占めるようになっていきます。これからも各地の学校を会場としてお借りして、より多くの先生方と交流できる機会を持ちたいと願っております。

キャラバン研究会は、皆様からのご要望があれば地域の研究会と共同開催させていただくことも、単独開催させていただくことも可能です。全道各地を巡回することも目標の一つとしています。学校事情等で1月の研究大会に参加が難しい地域での研究会開催や、地区の研究会の活性化にもお役に立てると思います。ご要望があればお応えします。高教研情報部会事務局担当鶴間(neo_turuq@yahoo.co.jp)までご連絡ください。

キャラバン研究会 昨年度までの実績

	石狩・空知・後志	渡島・桧山・胆振・日高	上川・留萌・宗谷	オホーツク・十勝・釧路・根室
平成 18 (2006) 年度		01 伊達 (09 月 16 日)		
平成 19 (2007) 年度	02 倶知安 (10 月 27 日)		03 旭川藤 (2 月 23 日)	
平成 20 (2008) 年度		04 函館西 (10 月 18 日)		05 帯広三条 (10 月 25 日)
平成 21 (2009) 年度	06 岩見沢緑陵 (8 月 6 日, 7 日)		08 旭川藤 (2 月 13 日)	07 釧路江南 (11 月 13 日)
平成 22 (2010) 年度	09 岩見沢緑陵 (8 月 5 日, 6 日)			10 紋別 (10 月 16 日)
平成 23 (2011) 年度	11 岩見沢緑陵 (8 月 5 日, 6 日) 13 小樽工業 (11 月 21 日)			12 音更 (10 月 28 日)
平成 24 (2012) 年度	14 岩見沢緑陵 (8 月 7 日, 8 日) 17 小樽工業 (11 月 22 日)	15 函館西 (10 月 6 日) 16 室蘭栄 (10 月 12 日)		
平成 25 (2013) 年度	18 札幌北 (8 月 7 日, 8 日) 19 滝川 (11 月 8 日) 20 岩内 (11 月 14 日)		21 旭川藤 (2 月 8 日)	
平成 26 (2014) 年度	22 札幌北 (8 月 4 日, 5 日) 23 岩内 (11 月 12 日)		25 旭川藤 (2 月 7 日)	24 阿寒 (12 月 18 日) * 悪天候のため中止
平成 27 (2015) 年度	26 札幌北 (8 月 4, 5 日) 28 小樽桜陽 (11 月 13 日)	27 静内農業 (10 月 30 日)		
平成 28 (2016) 年度	29 札幌北 (8 月 3, 4 日) 30 小樽桜陽 (11 月 11 日)	31 伊達 (12 月 9 日)		
平成 29 (2017) 年度	32 札幌北 (8 月 7, 8 日)		34 旭川藤 (2 月 10 日)	33 帯広柏葉 (10 月 25 日)
平成 30 (2018) 年度	35 札幌北 (8 月 6, 7 日)		37 旭川藤 (2 月 2 日)	36 帯広柏葉 (10 月 24 日)
平成 31 (2019) 年度	38 札幌北 (8 月 5, 6 日)		40 旭川藤星 (12 月 7 日)	39 本別 (11 月 22 日)
令和 2 (2020) 年度	新型コロナウイルス感染症により活動停止			

令和 3 (2021) 年度の活動

第 41 回キャラバン研究会 in 札幌 (オンライン 2021 年 8 月 3 日)

第 42 回キャラバン研究会 in 帯広 (オンライン 2021 年 10 月 14 日) ※主管校 北海道帯広緑陽高等学校

3-3-3 情報教員養成プロジェクト

情報部会では、教科「情報」の教員免許取得を目指す学生を支援することで、教科指導力を持つ若い情報科の教員を増やそうと、平成 29 年度から「情報教員養成プロジェクト」を進めています。

平成 30 年度からは、千歳科学技術大学の学生が作成した教材とそれを利用した授業案の発表会に高校の教員が参加したり、高校の情報の授業(プログラミング)に学生がティーチングアシスタント(TA)として参加したりするなどの取り組みを行っています。

今までに TA として参加した学生が、公立高校や私立高校で採用されて情報の教員として働いています。また、他教科の免許を所持しているという条件つきではありますが、北海道でも情報科の教員採用試験も始まりました。

これからも、この取り組みを継続して、北海道の情報科の教員を目指す学生を支援することを通して、北海道の情報教育の指導力のレベルアップにつなげていきたいと考えています。

3-3-4 授業レシピプロジェクト

情報部会では、授業の指導案や具体的な指導方法をまとめ、それを元に様々な学校で授業実践するプロジェクトを実施してきました。本プロジェクトは、専用CMSを整備し、より簡単なアップロードやダウンロードができるようにして、授業で活用できるギミックや演習などもレシピとしてどんどん蓄積しようとするものです。

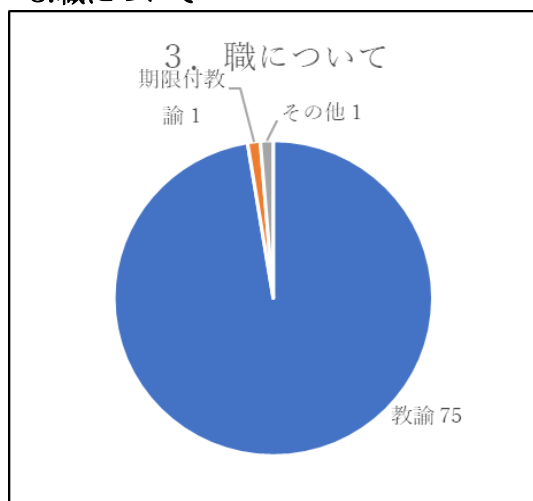
3-3-5 令和3年度高教研情報部会アンケート集計結果報告

この度は、お忙しい時期にもかかわらず、情報部会アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケートの集計ができましたので、ご報告致します。なお、自由記述の回答に関しては、各校の様子ができるだけダイレクトに伝わるよう、ほぼ原文の形で載せさせていただきました。多くの先生方にご活用いただければ幸いです。

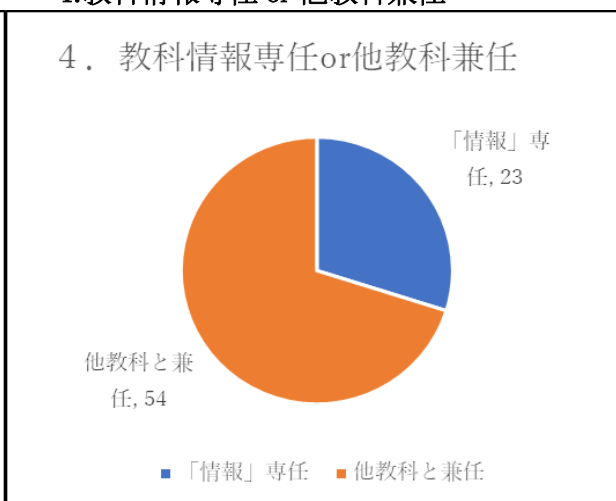
1.学校名 2.管内について

全道各地76校、77名の先生方からご回答をいただきました

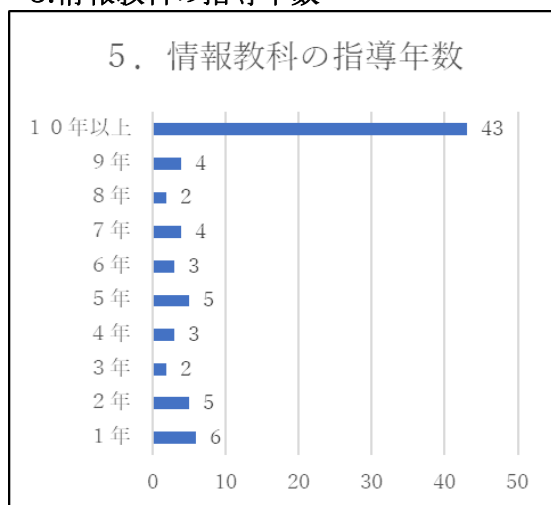
3.職について



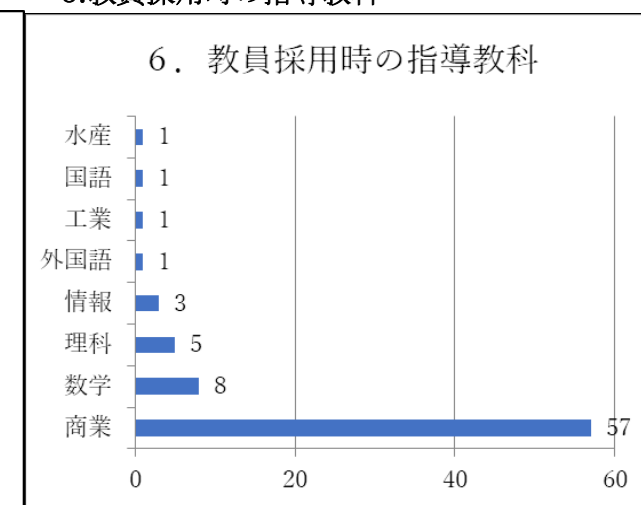
4.教科情報専任 or 他教科兼任



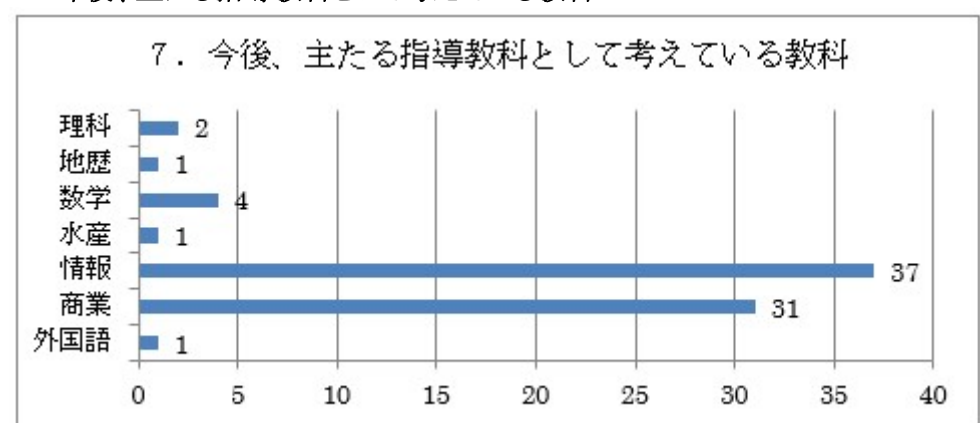
5.情報教科の指導年数



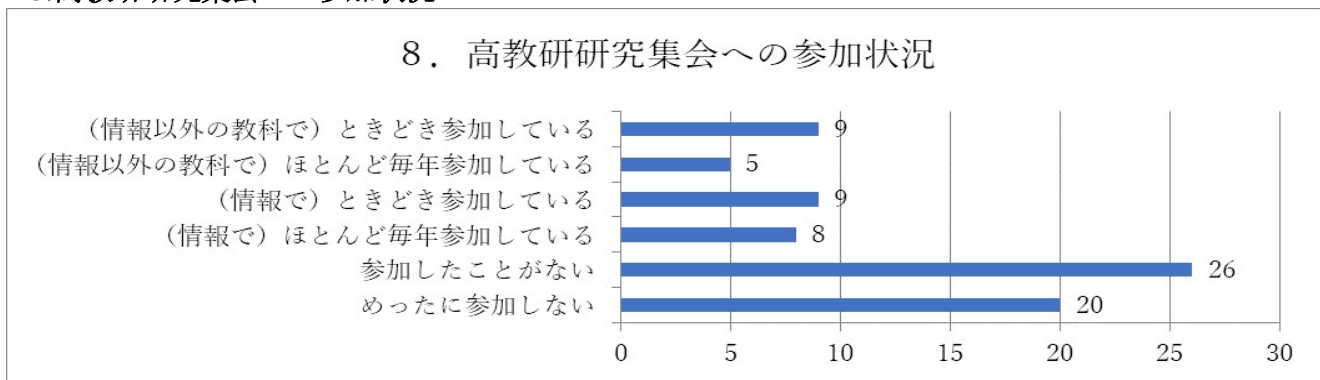
6.教員採用時の指導教科



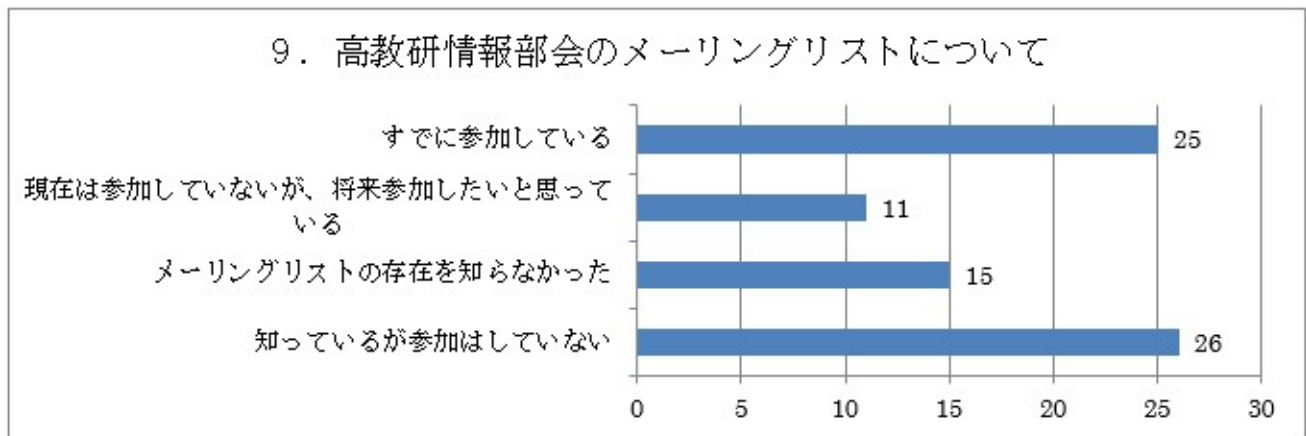
7.今後、主たる指導教科として考えている教科



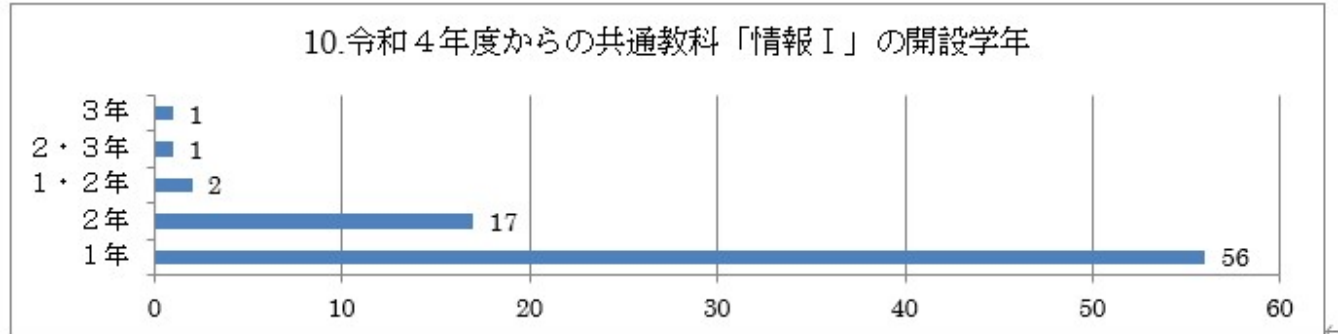
8.高教研研究集会への参加状況



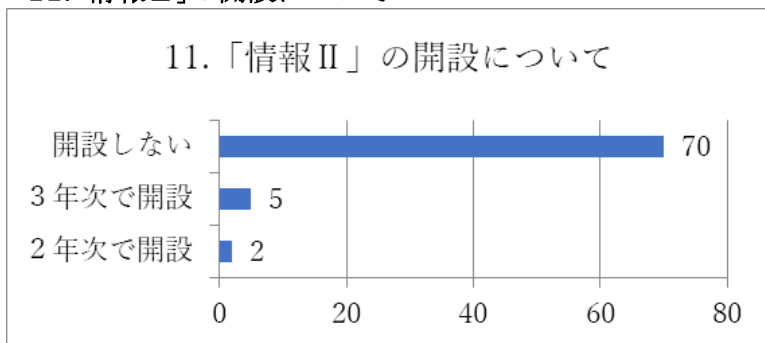
9.高教研情報部会のメーリングリストについて



10.令和4年度からの共通教科「情報Ⅰ」の開設学年



11.「情報Ⅱ」の開設について



12.「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」以外の情報科開設科目と、その開設学年

- ・情報テクノロジー(3年) ・「情報メディア」 ・2年次 情報の表現と管理 情報テクノロジー
- ・3年次 情報応用 課題研究 情報システムのプログラミング ・学校設定科目「情報と表現」3年

- ・情報デザイン。3年 ・令和4年度については、旧カリですが2学年に「情報の科学」・「情報活用」(学校設定科目・2年次必修) ・「情報Ⅱ」は2、3年次の選択科目として開設。「データサイエンス演習」、「プログラミング演習」、「人工知能概論」、「インフォグラフィックス」を2、3年次の選択科目として開設。 ・3年生 学校設定科目2つ 合計5単位 ・情報活用 3年次選択 ・コンテンツの制作と発信 ・第3学年において学校設定科目を2科目 ・学校設定科目「情報活用(3年次選択・3単位)」 ・2年次;情報テクノロジー、情報の表現と管理 3年次;情報応用(学校設定)、課題研究、情報のシステムとプログラミング ・情報活用(3学年) SS情報(2学年) ・情報課題研究・アルゴリズム・情報デザイン・表現メディア(3学年) ・情報の表現と管理(3学年) 情報メディアの編集と表現 (3年選択) 農業情報処理(1・2学年)
- ・情報産業と社会(2年) 情報の表現と管理(2年) 情報デザイン(3年) 情報活用(3年次選択)
- ・情報技術基礎(1学年) 情報探求(2年次総合選択) 情報演習(2・3年) 情報と表現(3学年)

13. 貴校の令和4年度情報科授業の指導内容や特色を教えてください

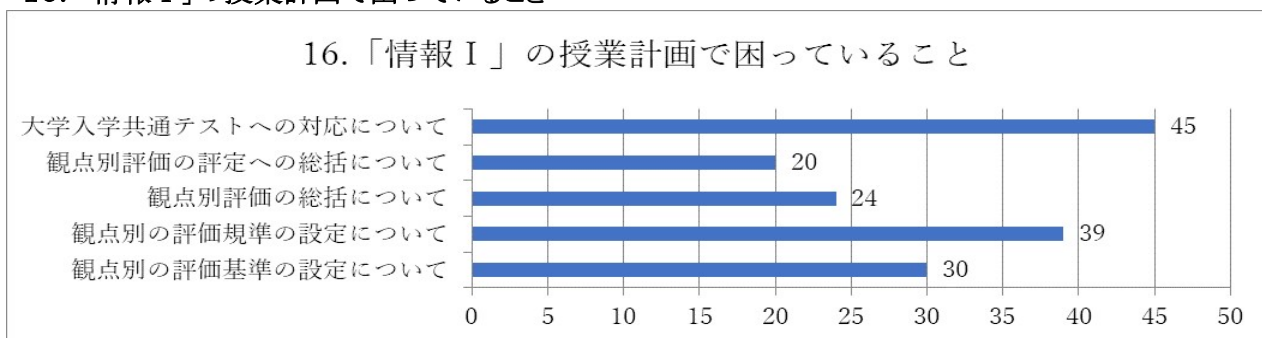
- ・全商ビジネス文書検定3級取得とへ移行して、授業展開します。また、情報モラルについて動画を利用した啓蒙と、問題解決の手法についての2つについては、特に重点を置いて指導します。(総合的な探究の時間の地域の問題発見・問題解決への提言実施の準備のため)
- ・可能な限り、実習を多く設けたいと考えている。
- ・教科書の内容を踏まえつつ、Office についても指導予定
- ・教科書の内容を確実に指導する。
- ・著作権やデジタルとアナログなどを行い、Word、Excel を若干行う感じです。
- ・2年時の開講なので令和4年度は社会と情報です。まずは社会と情報を教科書通り行う予定です。
- ・プログラミング授業の割合を増やします。
- ・教科書に準じた内容で実施予定
- ・外部機関や企業との連携
- ・小人数授業
- ・座学では、情報の科学で使用していたスライドとプリントを情報Ⅰにアップデートした教材を使用し、実技では、授業開始時の5分間タイピングと Google スプレッドシートへの記録、Google フォームでの小テスト、Jamboard を使った意見共有、Google Colaboratory での Python の学習、Google ドキュメントでのレポート作成、Word・Excel の実習の指導を予定。
- ・現在、検討中です。
- ・教科書に準拠した指導内容
- ・iPad Air と MetaMoji Classroom を用いた授業展開 ペーパーレス化 ラズパイを用いた開発環境を構築 Google workspace を用いる。
- ・表計算、ワープロ、プレゼン、モラル指導、教科書に沿った学習(旧教育課程)
- ・学習指導要領に沿った、課題の発見解決を主とした授業
- ・1年次に情報処理を設置しているので、既知のアプリケーションソフトを活用して展開していく。
- ・4年度はこれから考えます。
- ・基礎的操作スキルの習得ならびにプレゼンテーション 情報の取り扱いやモラル指導
- ・現在検討中
- ・教科書の内容に沿って座学を指導しながら、実習を実施していく。
- ・プログラミング、情報モラル、セキュリティ関連、プレゼンテーション ワード、エクセルなども少し入れる予定です 質問 14 に関しては現在選定中です
- ・初年度ということもあり、文部科学省が提示したカリキュラム通りに対応する
- ・Excel VBA によるプログラミング指導
- ・1年次に「情報Ⅰ」(2単位)、2年次に「情報活用」(学校設定科目・2年次必修)を行う。3年次には商業科目の「情報処理」(3単位・選択)を行う。2年次に「情報Ⅱ」を行うことも検討したが、本校生徒の学力等を考慮すると難易度が非常に高く、「情報Ⅰ」の内容を丁寧に指導する方針をすることにした。
- ・情報デザイン、プログラミング、データサイエンスを重点的に指導する予定です。
- ・生徒が卒業後、社会で活用できるスキルを中心とした展開を考えている。
- ・2年生から実施になるので、まだ確定していませんが、PCがあるうちはVB、無くなった後は Python にするしかないのではないかと考えています。
- ・55分授業になります。
- ・教科書(日文・図解と実習)の内容が充実しているようなので、教科書に沿ってオーソドックスに進めようと考えています。
- ・Googleworkspace を利用しています。データ分析の範囲をプログラミングを合わせて実施しています。

- ・本校では1学年と2学年に2単位ずつ情報1を設定する予定です。(情報の内容が現代の社会で重要性を増していること、本校生徒の学習理解に関する実態をみて設定しました) その上で、まちづくりに関する問題解決型学習を例年設定し、プログラミングについては基礎学力のついた2学年から触れたいと考えています。プログラミングは数学との連携を模索し、統計やシミュレーションの内容に触れたいと考えています。
- ・BYOD を活用した授業を行う(予定) ・調べ学習、問題解決学習
- ・手探りです。
- ・旧カリキュラムにより「社会と情報」を指導 WORD と EXCEL を中心にパワーポイントとちょっとだけプログラミングをやっています。また、CLASSI を使って見学旅行研修録の制作を行っています。
- ・当校は、2年生での履修となっているため、令和4年度は現行の指導要領に則り指導していく予定です。
- ・令和4年2年次「社会と情報」で探究学習のまとめとしてプレゼンテーションを情報の授業で後半にプログラミングをやろうと思っています。
- ・次年度は3年生の学校設定科目、web デザインのみです。HTML、CSS の学習と作品作り、検定受験し、就職の生徒も多いので履歴書にかけようとしています
- ・PC 基本操作 Word Excel PowerPoint の使用方法 教科書の内容 プログラミング
- ・スタートなので教科書に即してまずを進めようと考えています。
- ・プログラミングを従来よりも手厚く指導します。
- ・共通試験対策を考えている
- ・東川町より来年度入学生から chromebook が貸与されることとなっているため、Google Colaboratory を用いた Python のプログラミングや classroom、form、共有ドライブを用いた協働学習を考えている。
- ・専門情報の科目も少しは設置している
- ・word、excel の比重を軽くし、プログラミング等を先取りして取り入れたい
- ・義務教育で学習してきた内容を振り返り、その知識に地域の特性、多様化する進路活動に役立たせることができるような技能や知識の習得を目指す。
- ・中学校での一人一台端末の状況を情報収集した上、実際に能力を見ながらの授業になりますが、BYOD 制度が始まることで、情報モラルやセキュリティの分野は手厚く指導する必要があるのかと考えます。
- ・教科書の指導に加え、探究活動との連携を行う
- ・昨年度より教材等を検討しておりましたプログラミングに関する指導について、生徒の実態にあわせてよりICTに関心が持てるような構成を考えてあります。
- ・教科書と実習 実習は、プログラミング等に重きを置いている。表計算ソフトも行う。
- ・特にありません。(受験にシフトしなければと考えています)

14. 15. 「情報 I」で指導を予定しているプログラミング言語

Python	4 4	VBA も扱う	1 1
		JavaScript も扱う	2
		Scratch も扱う	1
		BASIC などのインタプリタ言語も扱う	1
JavaScript	5	HTML・CSS などの Web 関連言語も扱う	1
VBA	1 2		
Scratch	4	VBA も扱う	2
その他言語	6	Java 1 、 C# 1 、 未定 4	
プログラミングを教える予定はない、または未定	6	未定 1	

16. 「情報 I」の授業計画で困っていること



17.その他、お困りのことがあればご記入ください

- ・観点別評価と評価・評定連動が学校として1本化が難しく、生徒・保護者へ分かり易い評価となっていない。何のための観点別評価なのか、5段階の評定と連動させる必要性があるのか？など問題山積みです。
- ・プログラミングの指導 情報 I 全般 ・シラバス及び評価観点の作成と特色ある授業展開
- ・来春定年退職します。来年だれに引き継げばいいのか。
- ・再来年度から情報室の PC がなくなり、一人一台端末で授業をしなくてはならないのでその対応
- ・大学受験にて、情報の共通試験が必須となった場合、1年生での授業に加え、3年生でも授業が必要となる場合、授業時数増により専任1人では対応できなくなると考えています。今後、情報科専任の教員の追加はないのかが気になっています。
- ・生徒用 PC がリースのため、開発環境が入れられない。小中でプログラミングを行っているかが不透明である。
- ・商業系の検定試験を実施しているが、パソコン室のリース更新がない場合の対応をどうするか。
- ・観点別評価が本格実施となれば、評価の対象も多様とならざるを得ないし、そもそも指導内容が大きく変化しているというのに、それに対応したり準備したりする時間の余裕はない。まじめにやると疲弊する。共通テストで出題することの議論も拙速に過ぎる。
- ・リースPCがなくなると検定への取り組みはどうなるのか。
- ・プログラミングに対しての教員側の知識が乏しいのでそれに対する対応が困っている
- ・教科横断・カリマネと称して、年間行事予定に情報科が学年行事準備を請け負う形になっている部分が多くあり、その行事準備に情報の授業が使われてしまうこと。
- ・他校の情報が知りたいです。数年後にパソコン教室がなくなるということで不安です。
- ・授業計画ではないが、共通テスト対策として3年次に何をするか。
- ・観点別評価に関しては、マニュアルに沿って準備するだけなので、困っているというほどではないが、個人的にはもっとシンプルに評価をつけたいとは思っています。
- ・デジタル支援教材などの導入をすべきかどうか悩んでいます。 ・プログラミングの指導
- ・プログラミング言語の選定において、異動者への配慮が難しいです(自分が異動する場合も含めて)。また、言語に限らず、開発環境の整備にも各学校でかなりバラつきがあるのだと思います。BYODを実施されている学校によっては、生徒PCのスペックに差があり、開発環境を整えるところから時間を要すると思います。ブラウザでの開発でも問題はありますが、ネットの接続状況によってはブラウザに頼りすぎるリスクも存在します。
- ・BYOD を情報1でどう活用するか。 ・他の業務が忙しく授業改善に時間がとれないこと
- ・BYODへの対応 ・1人1台端末での授業実施と評価
- ・小中までの基礎学力が身につけていない生徒が多くどのように指導すべきか悩んでいる。
- ・画面を映し出す機材がパソコン室にはない希望しているがプロジェクタもテレビもあたらないため困っている
- ・日常のコンピュータ関係のメンテナンス等で業者と同じような対応や、コンピュータでの作業関係(当番校業務や体験入学、入選等の全ての処理等)の業務が集中するため、教材研究を行う時間が少なくなる。

18. コロナウィルス感染拡大防止対策への現在の対応状況

- ・コロナウィルス感染拡大防止対策への現在の対応状況
- ・PC使用后、消毒作業。タブレット貸し出しのため使用後の手洗い背負おう毒の実施(確認が難しい)。
- ・ようやくクラスルームを周知された段階。 zoom ? を使用しての授業
- ・定期的な換気の実施。
- ・天井からシールドをつるしている。消毒を徹底している。
- ・毎回の PC をアルコール消毒する
- ・3密をさける。
- ・生徒が少ないので、一人専用端末としている。入室時と退出時の手指消毒。20分に一回の換気。二酸化濃度測定器の設置。サーキュレータの設置。
- ・コンピュータ教室入室時に手を消毒するように指導。換気を実施。
- ・特別教室(PC教室)を使用のたびにキーボードマウスの除菌
- ・キーボードやマウスの除菌作業、入退室時の手指の消毒をおこなっている。
- ・教室前に消毒を配置し、入室前に消毒をさせています。
- ・手指消毒 キーボードやマウス等の消毒
- ・隣同士のPC間に簡易な仕切りを設置。手洗い・消毒の励行。キーボードの定期的な消毒綿での消毒。
- ・共有端末を使う際の手指消毒
- ・登校時の体調をチェックしている。
- ・コンピューター室入室時に手指消毒をお願いしている、休み時間にできるだけ窓を開けて換気をする、程度。

- ・手指消毒および換気、キーボードの消毒
- ・情報処理室入室前に手指消毒の徹底 マスク着用
- ・情報処理室への出入りの際は、手指消毒。教室内の換気。パーテーションの設置。
- ・PC教室入出時の消毒、換気、パーテーションの設置、PC等の消毒など
- ・各 PC 間に飛沫防止パネルの設定と喚起等。
- ・PC 操作前の消毒徹底など
- ・本校は今年度、休校・分散登校等は実施していない。そのためオンライン授業も行っていない。授業後のパソコン教室の消毒等を行っている。(キーボード・マウス等)
- ・消毒用アルコールの設置くらいです。
- ・常時換気扇を入れ、更に窓を開けて換気に努めている。教室に手指消毒液とキーボード・マウス消毒用の酒精綿を常備し、使用を推奨している。ほぼ全員の生徒が、入退室時に消毒を欠かしていない様子。
- ・学校で実施している防止策以外で特に実施しているものはありません。マスク着用・手指消毒・教室内の消毒(PC含む)・毎朝の検温提出(Google フォームを活用)を行っています。
- ・向かいあっている席には、ビニールでシールドを入れています。あとは入室前に手洗いと消毒をする程度です。
- ・少人数なので、それほど神経質にならずに対応できています。
- ・情報処理室に入る前に、消毒をしています。
- ・基本的な感染対策を継続しています。
- ・テーブル、マウス、キーボードの清掃、消毒 換気
- ・対面透明シート、キーボードのラップ処理等
- ・放課後コンピュータ室の消毒を毎日行っています。
- ・グループディスカッションを控えている状況です。
- ・学級閉鎖などになった場合は Zoom での授業を行っている。50 分授業で 40 分しか接続できないので後半は指示をだして終わる。
- ・警戒ステージ1であるが マスク着用・換気・消毒・黙食・三密指導を継続中
- ・教室入出時の手指消毒と清掃時のキーボード・マウス消毒
- ・実習前に、机、キーボード、マウスの除菌シートによる各自除菌 入室前および実習後に、アルコール消毒
- ・座席の間隔を十分にあけること。授業毎の PC 機器等消毒作業 教室の換気 手指消毒の徹底
- ・小規模校なので、通常の授業形態で密を避けられるので、一般的な対応のみとなっております。
- ・入退室時の手指消毒、換気

19. 情報の授業を担当する上での悩みなど

- ・免許外での指導。であるにもかかわらず大学入試へ対応することが求められている現状。本来は、免許外指導はしたくないが、やらなければ誰も指導できない。この現状を誰が解消してくれるのか？現場を理解しているのか？はなはだ疑問。誰も答えてくれない。
- ・情報の免許を持っている教員が一人なので、情報の授業全般が悩みです。
- ・教科として情報を担っているが、専門が情報ではない点。
- ・情報科に関する情報共有が困難であること。
- ・他校の実践等の情報共有
- ・プログラミングをどう行うか
- ・たかが情報ということでなんでも学校の都合よく事が進められる情報の発言権はほとんど通らない。一人しかいないのですべて自分のわがままとらえられる。
- ・本校は単位制高校で午前部・午後部・夜間部と分かれているため、一人で授業展開しているわけにはいきません。他教諭(他教科所属)の手助けを受けるので、教材開発は一人で行うのですが、内容を高度化させるとクレームが着てしまうので教材開発に気をつけなければならない苦労があります。大学入試対応は難しそうです。
- ・新課程における、情報の授業研究等の時間がとれず、これからシラバスや観点別評価の評価規準などを検討しなければいけないこと。
- ・情報 I の授業をどのようにすべきか。
- ・ギガスクールで導入されるタブレット端末によって wordExcel の指導がどう変わるのか PC 教室の扱いなど
- ・2単位で指導内容が盛りだくさんである。また、本校では「総合的な探究の時間」での補助的な学習指導も対応をしている。
- ・情報の授業に関して、他の先生と相談する機会がないこと。
- ・生徒用 PC がリースのため、最新のソフトや開発環境が入ることができない。生徒用 PC が廃止になった場合の対応をどうするか。検定の取得数。機器の老朽化。他の都道府県より環境が悪いため、できるのが少ない。

- ・BYODに伴い、デスクトップパソコンが更新されない普通高校では表計算やワープロのアプリの一斉指導が今後難しくなる。普通高校では関連する検定も受検できなくなる。プログラミングも必要かもしれないが、表計算ソフトもろくに操作できない未来の社会人でもいいのかが悩みどころ。
- ・中学校段階までで学んできていることが学校によって大きく違うので授業づくりが難しい。
- ・中学校で学んできたことの上積みを行うことが前提にあると思うので、基礎部分の把握をどのように行っていくか。また、GIGAスクール構想で1人1台が実施されていくと思うが、最低限プリントアウトが必要になる場面でどうするか。
- ・「大きな」話題は教科別集会やキャラバン研修会などの折に教えを請うたり、情報交換したりすることができるが、1人教科ゆえ、日々の疑問や相談事を話す相手がいないこと。
- ・担当者が授業以外に校内のネットワーク・情報機器・GIGA スクールの対応など、多岐にわたる業務をせざるを得ない
- ・コンピュータについての知識が追いついていない。
- ・教科情報が大学入学共通テストの科目となることによる、指導内容の対応と1年次に情報 I 2単位を指導してから3年次で大学入学共通テストまでの2年間をどのように継続した指導を行っていくのか。
- ・自分は数学・情報を担当しているが、数学は教えなければならないことは10年たってもあまり変わらないが、情報は1年で今教えていることが古くなってしまっていることがあるので、教材の変わるスピードが速いためついていくのが大変。
- ・情報をメインで力を入れて取り組みたいが、数学をメインで今年度から持たされていて、講習もあつたりと情報科に全力を注げないこと。
- ・共通テスト対策をどうするか。
- ・後任者への引継ぎ
- ・内容が幅広く、授業ですべてを行うことは難しく、生徒にとって将来本当に必要か疑問を感じる。
- ・新カリではBYODになるので、ワープロ検定などはできなくなるのではないかと考えています。また、授業でExcel、Wordをやることは実質不可能になりますが、社会に出てから使うものをさせずに卒業させて本当によいものか？というのが疑問です。プログラミングは理系だけでいいように思います。
- ・副教材等の取り扱いについて
- ・主担当だと何かと苦労が多かった教科ですが、兼任で担当すると、情報のよいとこどりができて楽しく授業や校務にあたることができている。
- ・担当者が自分のみで相談授業づくりの相談相手がいない。
- ・プログラミング等の深い知識が必要な内容が増えた
- ・office系アプリからGoogle系アプリの活用に移行せざるを得ない気配を感じています(社会ではoffice系が現在も優勢なのに、無料サービスのためでしょうか)。情報担当者はGoogle系アプリの習得に加え、プログラミンなどの内容を他教科と兼任しながら学び続ける必要があるのだと思いますが、変化に対応しきれぬ不安はあります。商業と情報を持っていると、実学ゆえの悩みか常に学習内容が更新され、楽しさと不安の毎日です。情報の指導力を上げようと、今年基本情報技術者を独学で取得しましたが、まだまだ学ぶべきことが多すぎて、何から手をつけようか迷っています。弱音を吐きながらも、来年4月までにきちんと準備をしようと思います。
- ・研究、研修のあてる時間がない。
- ・機器の老朽化や整備に時間を割かれること
- ・生徒の活動の見取りをGoogleformなどを使って行いたい、準備する時間がない。
- ・一人でやっていますので気楽ですが、他校の実施状況との比較や授業改善があまり進まない点です。
- ・座学と実習のバランスを取るのが難しいと感じている。
- ・ネットの接続が遅いことと、キーボードの入力速度に差があるため思うように授業が進まないこと。
- ・情報教室の閉鎖とBYODへの対応
- ・商業科目の指導に長く携わってきた。検定に向けた取り組みやその成果で生徒たちの目標への達成感や 成就感を見出してきた。教科「商業」と「情報」の違いにまだ違和感を感じている。
- ・PCのタイピングが遅い
- ・先程書いたことと重複しますが、生徒のグループでの取り組みなどを全体でみるような画面ないため、できない授業がある。今後タブレットになったら、画面も小さくなり授業支援ソフトも金銭的に入れられないため、各端末の取り組み状況も把握しにくくなる。
- ・情報が専門科目ではないこと(不得手であること) さまざまな地域から生徒が集まり、発達にも差があるため、どこに焦点をあてて授業をすすめていくか
- ・次年度情報 I の教科指導と、共通テスト対応について 具体的な取り組みをどう進めていくべきか
- ・専任ではないので、教科指導そのものが辛い。
- ・サーバーやネットワークなど当然できるだろうと思われているところ
- ・1人配置のためすぐに相談することができない。
- ・観点別評価をどのように行くと良いか。

20. 研究会等で学んでみたい内容があればご記入ください

- ・基礎的なプログラミング。タブレットを使用しての授業実践など。
- ・プログラミング、ネットワークに関する内容。
- ・機会があったらいろいろな話お聞きしてみたいです。
- ・プログラミング指導における他校の事例・
- ・Google Workspace の利用が増えてきたことから、Google App Script を学んでみたいと考えています。
- ・他の学校ではどのような授業をしているのか。どのように指導しているのか。
- ・課題を発見、解決するための問題提起。
- ・実費は伴いますが、簡単な電子工作をやってみたいです。
- ・毎度言われていることではありますが、情報のデジタル化とかネットワークとか、知識を教えることが中心になりがちな単元をどう教えたら良いか、という問題についていまだに答えが出ません。
- ・プログラミングについてもっと勉強したいが、研究会に参加する余裕もない。
- ・他の学校での3年間の教科情報の指導体制や指導方法について
- ・プログラミングの指導
- ・他校の授業をみてみたい・
- ・各高校での他教科・行事・総探との連携状況・対応の交流
- ・プログラミング学習の一連の流れについて、他校の先生の指導案・資料等を見てみたいです。自身の指導の参考にさせていただきたいと思います。
- ・GIGAスクールに関する各校の取り組み、環境整備、PCは貸与か、それとも購入かなど。・
- ・統計学、データサイエンス
- ・小学校・中学校の情報(プログラミング)の授業の様子などがわかると良い・
- ・著名な先生方の講演を拝聴したいです。・
- ・アンケート作成等、いつもありがとうございます。
- ・指導実践集
- ・あくまで手段として、Google のスプレッドシートやドキュメントを活用した授業・
- ・プログラミング・他教科と連携した授業実践について・
- ・情報の授業で使える小テスト集の作成・
- ・評価基準例とプログラミングの教材があれば・
- ・プログラミング、共通テスト対策
- ・BYOD先進校の取り組み・
- ・Google タブレットアプリと windows 系 PC ソフトでの連携と教材研究 方法。・
- ・高教研の締め切りを知らなかったため、参加を申し出たのが締め切りを過ぎていたようで一月の研修に参加できず残念です。実際の授業時の生徒のように、対面で研修したいなと思います。研修で先進校の取り組みを学んだ際は素晴らしいと思いましたが、本校の生徒だと Python は難しいかなと感じたので、vba や JavaScript などの取り組みも拝見したいと思いました。・
- ・プログラミンなど、情報 I の内容についての研修。
- ・現状のプログラミングなどで満足です
- ・観点別評価 入試対策 プログラミング等

3-4-1 令和3年度 一般会計予算

(1) 収入の部

科目	令和2年度 予算額	令和2年度 決算額	令和3年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	300,000	264,162	296,687	△3,313	
本部交付金	235,900	40,000	235,900	0	
雑収入	0	1	0	0	
合計	535,900	304,163	532,587	△3,313	

(2) 支出の部

科目	令和2年度 予算額	令和2年度 決算額	令和3年度 予算額	増減(△)	適用
講師旅費・謝金	180,000	0	180,000	0	謝礼・交通費
事業費	40,000	5,238	40,000	0	ワークショップ企画
会場費	0	0	0	0	
運営費	35,000	1,230	35,000	0	記録メディア等
研究調査費	50,000	0	50,000	0	研究資料・書籍
備品運搬費	15,000	0	15,000	0	機材運搬
事務通信費	10,000	1,008	10,000	0	文書郵送費
備品購入費	115,000	0	115,000	0	機材購入
予備費	90,900	0	87,587	△3,313	雑費
合計	535,900	7,476	532,587	△3,313	

3-4-2 令和3年度 特別会計予算

(1) 収入の部

科目	令和2年度 予算額	令和2年度 決算額	令和3年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	20,000	70,506	70,506	50,506	
企業広告協賛金	100,000	0	100,000	0	
雑収入	0	0	0	0	
合計	120,000	70,506	70,506	50,506	

(2) 支出の部

科目	令和2年度 予算額	令和2年度 決算額	令和3年度 予算額	増減(△)	適用
運営費	30,000	0	50,000	20,000	
役務費	80,000	0	110,000	30,000	
積立会計	0	0	0	0	
予備費	10,000	0	10,506	506	
合計	120,000	0	170,506	50,506	

3-4-3 令和3年度 積立会計予算

(1) 収入の部

科目	令和2年度 予算額	令和2年度 決算額	令和3年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	21,912	21,912	21,912	0	
特別会計より	0	0	0	0	
雑収入	0	0	0	0	
合計	21,912	21,912	21,912	0	

3-4-4 令和3年度 一般会計中間報告

(1) 収入の部

科目	令和3年度 予算額	中間報告	増減(△)	適用
繰越金	296,687	296,687	0	
本部交付金	235,900	167,550	△68,350	調査研究費
雑収入	0	2	2	利息
合計	532,587	464,239	△68,348	

(2) 支出の部

科目	令和3年度 予算額	中間報告	残額	適用
講師旅費・謝金	180,000	0	180,000	
事業費	40,000	27,348	12,652	サーバ利用料
会場費	0	0	0	
運営費	35,000	1,400	33,600	飲み物等
研究調査費	50,000	0	50,000	
備品運搬費	15,000	0	15,000	
事務通信費	10,000	2,632	7,368	郵送料
備品購入費	115,000	0	115,000	
予備費	87,587	0	87,587	
合計	532,587	31,380	501,207	

3-4-5 令和3年度 特別会計中間報告

(1) 収入の部

科目	令和3年度 予算額	中間報告	増減(△)	適用
繰越金	70,506	70,506	0	
企業広告協賛金	100,000	30,000	△70,000	
雑収入	0	0	0	
合計	170,506	100,506	△70,000	

(2) 支出の部

科目	令和3年度 予算額	中間報告	残額	適用
運営費	50,000	12,427	37,573	除菌シート等
役員費	110,000	34,292	75,708	役員交通費・弁当・飲料
積立会計	0	0	0	
予備費	10,506	0	10,506	
合計	170,506	46,719	123,787	

3-4-6 令和3年度 積立会計中間報告

(1) 収入の部

科目	令和3年度 予算額	中間報告	増減(△)	適用
繰越金	21,912	21,912	0	
特別会計より	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
合計	21,912	21,912	0	

(2) 支出の部

科目	令和3年度 予算額	中間報告	残額	適用
運営費	—	0	—	
役員費	—	0	—	
事務通信費	—	0	—	
予備費	—	0	—	
合計	—	0	—	

3-5 令和4年度の研究テーマ

令和4(2022)年度研究テーマ趣旨説明文

令和4(2022)年度は情報科教育にとって、大きな転換期と言えます。

乗り越えなければならない大きな波がいくつも押し寄せる中、このまま何も手を打つことができないままでは、パラダイムシフトの衝撃に粉々になってしまう恐れを感じます。

そこでまず、パラダイムシフトと考えられる内容について、いくつか整理してみることにします。

第1に、これまで選択必修であった「社会と情報」、「情報の科学」が、共通必修科目「情報I」へと集約されたことへの対応です。

確かに、学習指導要領が改定されてからこれまで、私たちはそれなりの研修を重ねてきたとは言えます。しかし、多くの学校が「社会と情報」を選択してきた経緯を考えると、この対応は決して容易ではないでしょう。私たち自身が、「情報の科学的理解」についての知識と技術を身に付ける研鑽を、これまで以上に積まなければなりません。

第2に、「GIGA スクール構想」への対応です。

この構想によって情報通信ネットワークが高速大容量になり、かつ無線通信の利用により自由度も高まります。しかし、複雑になった情報通信環境の管理が、利便性とのトレードオフとして教員の手を煩わせることになるでしょう。

また、BYOD (Bring Your Own Device) の導入によって、生徒個々の利用する情報端末の動作環境が、それぞれ全く異なったものになるであろうことが予想されます。このことが、生徒個々の情報端末上でのフィルター設定や利用制限、複数の OS 管理への対応といった面倒を生じます。

さらに、これまで利用してきた「コンピュータ教室とデスクトップコンピュータ」という環境が失われるという変化も、けっして見逃してはならないでしょう。

第3に、2025年の大学入学共通テストの中で、国立大学の受験生に対して「情報」が原則として課されることへの対応です。

「情報I」がその出題範囲となり、2022年度入学生が最初の受験生となりますから、まったく時間的猶予がないばかりか、その準備に失敗は許されない状況です。これまでに公開されてきた情報処理学会の試作問題や大学入試センターのサンプル問題、「情報関係基礎」のアーカイブなどを研究することをはじめとして、その対策は喫緊の課題と言えます。

第4に、新学習指導要領に則した新しい観点別評価への対応です。

観点別評価の観点は、従来の4観点から「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」といった3観点に整理されました。単なる用語の整理であると捉えて安易に受け止めるのではなく、観点別評価の更なる進化として具体的な評価方法としての体系化を図る必要があります。このことで、これまでの授業への考え方、デザインの仕方にも抜本的な変革が求められ、再構築の必要性も生まれてくるのだと考えられます。

さらに、これらの他にも、私たち情報科教員の人数や配置、スキル向上のための研修のあり方なども取り上げることができます。しかしながら、これといった具体的な対策が施される様子を窺い知ることは叶わず、相変わらず問題の解決は各学校、とりわけ直接担当する情報科教員に委ねられ、先送りされているのが現状です。

さて、以上のように、パラダイムシフトと考えられる内容について整理をしてきました。

それぞれに、社会や産業界、教育に係る確かに納得できる微視的な観点が存在していることは理解できます。しかし、これからの社会の変化を見通す中で、それぞれがどのような効果や影響を及ぼし、その結果として社会全体にどのような成果もしくは弊害をもたらすのか。そのような巨視的な観点が欠けているのではないのかというのが、ここまでの偽らざる思いです。

私たちにも同じことが言えるのかもしれませんが。

私たちは、複雑に絡み合う条件や環境の中で、見定めた目標を実現するための学びを取捨選択し、一つ一つの授業をデザインしています。これはいわば、微視的な観点から日々の教育活動を行なっているのであり、巨視的な観点を見失ってはいないかという振り返りが求められているのだということです。この巨視的な観点とはやはり学習指導要領でしょう。これをガイドラインとして、一人一人の生徒と向き合い寄り添う学習活動をデザインすることの大切さに、私たちは改めて思い至ることになります。

とはいえ、今の私たちの目の前には、手を付けることを逡巡してしまう多数の課題が広範囲に散らばっています。これらに立ち向かうためには、まず、情報科が今解決すべき問題点を具体的に洗い出し、関連性の高いものをまとめてテーマとして絞り込むことが必要です。そしてそのうえで、解決の方策や試行を積極的に共有し、私たちの活動が相互作用することによって、それぞれの資質を高めていけるのではないかと考えます。

幸いなことに私たちは、Web 会議システムを活用したワークショップや研究会の開催によって、例年通りの規模で活動することもできています。

これらの経験とノウハウを踏まえて以上を提案の趣旨とし、令和 4(2022)年度の研究テーマを次のように提案します。

新時代の情報科 混沌からの脱却
(解決すべきテーマの精選、方策と活動の共有)

3-6-1 研究紀要

情報部会では下記により、次年度に向けての研究紀要の執筆者を募集します。執筆は個人によるものでもグループによるものでもかまいません。日頃の研究の成果を発表する場としてご利用いただきたいと思っております。

令和4年度北海道高等学校教育研究会研究紀要執筆者の募集について

2023年3月に発行される本研究会「研究紀要第60号」の教科部会「情報」の執筆者を募集します。募集する研究論文は、高教研の研究主題である、

「未来を担う人を育む北海道高等学校教育の創造」

に沿ったもので、以下の要件を満たしているものです。

(要件)

- ・執筆者は高教研の会員に限る。
- ・個人的でない内容である。
- ・単年度で完結した研究である。
- ・高校教育に関わる研究である。
- ・数年度のスパンにおいて、特定校・特定個人に偏らない。
- ・文字数は25,000文字以内(横25文字×1,000行)

個人もしくはグループで執筆を希望する会員は、研究紀要募集担当(高教研情報部会事務局担当鶴間(neo_turuq@yahoo.co.jp))にご連絡ください。choice メーリングリストでも募集案内を流します。執筆に関しての質問もこちらで承ります。

執筆の希望者が複数出た場合は役員会で執筆者の選考を行います。

3-6-2 キャラバン研究会

積み重ねた実践を互いに共有し合うことで、生徒の学習意欲を高めながら全道各地で質の高い教育活動ができることを目指し、今年度に引き続き、キャラバン研究会を実施します。次年度は、実施実績の少ない各地区管内での実施を努力目標とします。キャラバン研究会の開催についてのお問い合わせは高教研情報部会事務局担当鶴間(neo_turuq@yahoo.co.jp)まで。

3-6-3 高教研情報部会アンケート

北海道内の情報科と担当する先生方が置かれている状況を把握・共有し、高教研情報部会としての活動をより有意義で質が高い先生方のニーズに合ったものにするために、次年度もアンケートを実施します。なお、前回のアンケートでいただいたご意見を基に、アンケート設問や結果の報告などについての検討・改善を加えます。

3-6-4 全国高等学校情報教育研究会全国大会参加派遣補助

高教研情報部会では、北海道の情報科教育の質をより高いものにするを目的として、高教研情報部会会員の、全国高等学校情報教育研究会全国大会への参加派遣補助を行っています。補助額は2万円です。

次年度も、派遣補助人数は原則1名とし、choiceウェブページ上およびchoiceメーリングリストで告知し、希望者を募ります。ただし派遣者は高教研情報部会総会での報告義務があります。

令和3年度はオンライン大会になったため参加補助はありませんでした。次年度もオンライン大会が予定されていますが、事態が好転した場合には関東地区で従前通り開催される可能性があります。この場合は参加派遣補助を行う予定です。

全国大会の詳細は <http://www.zenkojoken.jp/> で確認してください。

3-7-1 令和4年度 一般会計予算案

(1) 収入の部

科目	令和2年度 決算額	令和3年度 予算額	令和4年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	264,162	296,687	300,000	3,313	
本部交付金	40,000	235,900	230,000	△5,900	
雑収入	1	0	0	0	
合計	304,163	532,587	530,000	△2,587	

(2) 支出の部

科目	令和2年度 決算額	令和3年度 予算額	令和4年度 予算額	増減(△)	適用
講師旅費・謝金	0	180,000	180,000	0	謝礼・交通費
事業費	5,238	40,000	60,000	20,000	サーバ、zoom 使用料
会場費	0	0	0	0	
運営費	1,230	35,000	35,000	0	記録メディア等
研究調査費	0	50,000	50,000	0	研究資料・書籍
備品運搬費	0	15,000	15,000	0	機材運搬
事務通信費	1,008	10,000	10,000	0	文書郵送費
備品購入費	0	115,000	100,000	△15,000	機材購入
予備費	0	87,587	80,000	△7,587	雑費
合計	7,476	532,587	530,000	△2,587	

3-7-2 令和4年度 特別会計予算案

(1) 収入の部

科目	令和2年度 決算額	令和3年度 予算額	令和4年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	70,506	70,506	90,000	19,494	
企業広告協賛金	0	100,000	100,000	0	
雑収入	0	0	0	0	
合計	70,506	170,506	190,000	19,494	

(2) 支出の部

科目	令和2年度 決算額	令和3年度 予算額	令和4年度 予算額	増減(△)	適用
運営費	0	50,000	60,000	10,000	
役務費	0	110,000	120,000	10,000	
積立会計	0	0	0	0	
予備費	0	10,506	10,000	△506	
合計	0	170,506	190,000	19,494	

3-7-3 令和4年度 積立会計予算案

(1) 収入の部

科目	令和2年度 決算額	令和3年度 予算額	令和4年度 予算額	増減(△)	適用
繰越金	21,912	21,912	21,912	0	
特別会計より	0	0	0	0	
雑収入	0	0	0	0	
合計	21,912	21,912	21,912	0	

4 その他

4-1 北海道高等学校教育研究会 情報部会規約

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、北海道高等学校教育研究会情報部会と称する。

(目的)

第2条 本会は、北海道高等学校教育研究会の目的に準じ、共通教科ならびに専門教科「情報」の教育(以下、情報教育と称する)に関する事項を研究し、会員相互の研修と識見の向上につとめ、情報教育の振興を図る。

(会員)

第3条 本会の会員は、北海道高等学校教育研究会の会員であって、情報教育を研究する者、ならびに情報教育の趣旨を生かした教育活動を行おうとする者をもって構成する。

第2章 事 業

(事業)

第4条 本会の目的を達成するため、情報教育に関する研究を通して下記の事業(北海道高等学校教育研究会会則第4条による)を行う。

- (1) 研究会の開催
- (2) 機関誌への寄稿
- (3) 講習会、講演会の開催
- (4) その他本会の目的達成に必要と認められる事業

第3章 組 織

(役員と任務)

第5条 本会の役員と任務は、次のとおりとする。

- (1) 部会長 (1名 本会の運営を統括し、本部役員となる。)
- (2) 副部会長 (2名 部会長を補佐し、部会長に事故あるときは職務を代行する。)
- (3) 監事 (2名 本会の業務および会計を監査する。)
- (4) 幹事 (若干名 本会の会務に参与する。)
- (5) 事務局長 (1名 本会の事務を統括し、本部との連携を図る。)

(役員を選出と任期)

第6条 本会の役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 部会長は、北海道高等学校教育研究会情報部会加入の校長とする。
- (2) 副部会長は、北海道高等学校教育研究会情報部会加入の校長、副校長または教頭とし、部会長が委嘱する。
- (3) 監事は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
- (4) 幹事は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。
- (5) 事務局長は、本会会員から選出し、部会長が委嘱する。

2 役員任期は1年とし、再任を妨げない。

3 情報部会総会において、役員を報告する。

(事務局)

第7条 本会の事務局は、原則として幹事によって構成される。

2 必要に応じて、札幌市内および近隣の本会会員をその構成員とすることができる。

第4章 会 議

(本部役員会)

第8条 本部の役員会(年3回)には、部会長と事務局長が情報部会を代表し出席する。

(役員会)

第9条 役員会は、部会長が招集し、次の事項を審議する。

- (1) 事業報告および収支決算
- (2) 監事による監査報告
- (3) 事業計画および、収支予算
- (4) 役員を選出
- (5) その他、必要とする事項

2 臨時役員会は、必要に応じて部会長が招集する。

(総会)

第10条 総会は、北海道高等学校教育研究大会の教科別集会において開催し、会の規約や業務、会計に関する
ことなどについて審議する。

第5章 会 計

(経費)

第11条 本会の経費は、北海道高等学校教育研究会からの交付金、およびその他の収入による。

(書記・会計)

第12条 書記・会計に関する業務は、事務局員が担当する。

(会計年度)

第13条 本会の会計年度は、毎年4月1日より始まり翌年3月31日までとする。

第6章 その他

(規約の改廃)

第14条 規約の改廃は、役員会で審議し、総会で承認するものとする。

(細則)

第15条 本会に必要な細則は、別に定める。

附 則

- (1) この規約は、平成15年1月10日より施行する。
- (2) 平成16年1月9日 第6条(2)を改正。
- (3) 平成24年1月12日 第2条、第3条、第6条(2)の一部を改正。
- (4) 平成25年1月10日 第9条を改定。
- (5) 平成30年1月11日 第2条、第3条、第4条、第5条、第6条、第7条、第9条を改正。

4-2 参加者名簿

No.	支 部	学 校	氏 名
1	石狩	札幌北	円山 健一
2	石狩	札幌北	前田 健太郎
3	石狩	札幌北	藤島 慶太
4	石狩	札幌月寒	小甲 正
5	石狩	札幌稲雲	鶴間 伸一
6	石狩	札幌英藍	武藤 良弘
7	石狩	有朋	古屋 順一
8	石狩	有朋	奥村 稔
9	石狩	江別	風上 拓弥
10	石狩	恵庭北	梅田 充
11	石狩	北広島西	安田 優子
12	石狩	石狩翔陽	中根 孝浩
13	石狩	札幌旭丘	杉本 式史
14	石狩	札幌旭丘	高瀬 敏樹
15	石狩	札幌旭丘	指田 あすか
16	石狩	札幌旭丘	溝口 義一
17	石狩	札幌新川	天野 将寿
18	石狩	札幌北斗	古澤 正三
19	石狩	札幌龍谷学園	相蘇 孝哉
20	道南	函館西	岩谷 義久
21	道南	檜山北	佐藤 健
22	後志	小樽潮陵	津端 公彦
23	後志	小樽水産	丹羽 祐人
24	後志	倶知安	大川 恵
25	空知	滝川	池田 弘樹
26	道北	旭川西	小玉 昌宏
27	道北	旭川藤星	鎌田 亮樹
28	オホーツク	紋別	吉川 邦彦
29	釧根	釧路湖陵	小笠原 淳互
30	釧根	釧路東	山下 賢一
31	釧根	羅臼	鎌田 豪
32	十勝	帯広柏葉	土田 泰裕
33	十勝	帯広緑陽	宮川 尊充
34	日胆	室蘭栄	岡藤 秀樹
35	日胆	登別明日中等教育	小笠原 清陽
36	日胆	静内	木原 弘紀
37	日胆	日高	小野 慎一郎
38	日胆	伊達開来	伊藤 崇

4-3 令和3年度 北海道高等学校教育研究大会教科別集会情報科部会アンケート

※今後の教科別集会、企業展示・企業プレゼンの参考にさせていただきます。本日の内容に関するご意見やご感想をお願いします。

以下 URL にアンケート回答 Web を用意致しましたので、回答をお願いします。(スマホからも回答できます)
下の QR コードからもアクセス出来ます。

<アンケート回答 Web>

https://docs.google.com/forms/d/1RcVCSxF0jCHMgHKKDocoysnaiS2O00tYU_PJOJq7ma8/edit?usp=sharing

<QR コード>

